

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	九州大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キュウシュウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	機能数理学特別実習(キーテクノロジーを牽引する数学博士養成プログラム)
	学部・研究科等名	大学院数理学府
	担当教職員名・役職	原隆・数理学府長, 佐伯修・教授, 安田雅哉・准教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	2
	受入企業等数	2
	受入企業等名	Fujitsu Laboratories of America, Inc., Hitachi Asia Singapore
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,2.有給インターンシップ,3.海外インターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業から指示された、広い意味で数学・数理学に関わる業務に携わる。もしくは企業の研究開発チームにおいて提供された、数学・数理学に関わる課題の解決に向けて、学生個人の自発的アイデアも含めて、チームの一員として取り組む。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,4.当該インターンシップは、必修科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	博士後期課程2年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	機能数理学特別実習は、博士後期課程機能数理学コース、キーテクノロジーを牽引する数学博士養成プログラム(九州大学リーディングプログラム)の必修科目であり、主に博士後期課程2年次に3か月から6か月の長期にわたり海外企業でのインターンシップ活動を行うものである。終了後に報告会を行い、そこでの発表をもとに単位認定を行っている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している,5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	企業で実際に数学をベースに仕事をしている方を講師として招き、実務講義を行ってもらい、インターンシップへの準備としている。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	海外長期インターンシップの期間、定期報告を提出させ、進捗状況等を確認している。また、企業とのマッチングを通じた事前指導や、事後報告指導等を組み合わせることで、適切な指導が行える工夫をしている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	基本的に各学生が受け入れ企業の調査を行い、必要な知識やスキルの準備を行うが、インターンシップを行うにあたっての基本的事項は教員側からも説明会、面談等で指導している。さらに企業の方を講師にお招きし、実務講義を行っていただくことで、数学・数理学が実際の現場でどのように使われているかの事前学習も行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了後に報告書を提出してもらうとともに、企業側の受け入れ担当者からの評価コメントもいただいている。さらにインターンシップ報告会を開催し、そこでインターンシップ期間中に行った活動について発表を行ってもらっている。一部の学生については、インターンシップ期間の最後に企業において社員向けの活動報告も行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	海外長期インターンシップの期間、2週間に1回程度の割合で定期報告書を提出してもらい、インターンシップの進捗状況やその期間における活動状況を把握している。また、海外長期滞在となるので、現地での種々の生活一般についても感想等を書かせている。また、インターンシップに向けての企業とのマッチングなどを通じた指導や、事後報告などの指導を組み合わせることで、適切な指導が行える工夫をしている。

要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了後に、報告書を提出してもらうほか、インターンシップ報告会において発表してもらうことで、その学生がインターンシップを通して学んだこと、そしてどのような面で成長したか、ということの確認を行っている。またインターンシップの成果として論文等を執筆していれば、その確認も行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間3か月程度
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生によってバラツキがあるが、3か月～6か月程度の日数を確保して実施している。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業側と学生とのマッチングを、企業と協働して行っている。また、企業等から講師を招いて交流セミナー(社会における教理学)を開催しているほか、実務講義も行っている。さらに、インターンシップ受け入れ担当者による評価も実施している。また、実施後の教育効果を測る取組として、企業と合同で課題解決にあたるスタディグループを開催している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www2.math.kyushu-u.ac.jp/leading/detail/index.html">http://www2.math.kyushu-u.ac.jp/leading/detail/index.html</a>
問い合わせ先	大学等名	九州大学
	担当部署名	大学院数理学府
	担当者役職名	教授
	担当者氏名	佐伯修
	電話番号	092-802-4486
	メールアドレス	saeki@imi.kyushu-u.ac.jp